

## （主な意見・質問）

（問）八幡浜市が目指すべき現実的な学校規模は、小学校1学級25人程度で、1学年1学級、全校で150人程度としているが、これが平成30年度から令和9年度間の現実的な学校規模としての落としどころなのか。中長期的に見ても、もう少し広いエリアで統合を考えた方が良いのではないかと思う。例えば、将来的には、市内の中心部に大きな小学校を建てて、（仮称）八幡浜小学校にすれば、全ての地域で折り合いがよいのではないかと思うが、学区の編成も含めてどのように考えているのか。

（答）平成30年度から令和9年度間の八幡浜市が目指すべき現実的な学校規模は、学校再編整備第二次実施計画（10年計画）を立案する際の一つの方向性である。学校教育法施行規則では、小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とすると書かれているが、そういう学校は市内には存在しないので、現在の八幡浜市の子ども的人数を考慮すると、1学級25人程度で、1学年1学級、全校で150人程度が現実的な学校規模としている。第二次実施計画は、令和9年度までの計画であるため、令和9年度中には第三次実施計画策定のための協議に入る必要がある。次の第三次実施計画では、小学校10校をどうするのかという議論に入ってくると思うので、今回の後期計画では、各エリアの軸となる学校に再編する必要があると表記している。（仮称）八幡浜南小学校という学校名にしているが、名称については、東西南北にするのか、第1、第2、第3とするのかも含めて、小学校の再編を今後も進めていかないといけないと考えている。

（問）統合により、（仮称）八幡浜南小学校になれば、当然、新しい校歌を作らと思うが、早いうちにまた統合という可能性が出てきたら、また校歌が変わることになるのではないか。いっそのこと八幡浜小学校にすれば、将来的に統合したとしても、同じ学校名で、校歌も長く使えるようになるのではないか。

（問）今言われたように、短期間でまた校名や校歌が変わるのであれば、八幡浜の子どもの歌とか、どの学校でも歌えるような歌を作った方が良いのではないか。学校ごとに校歌を作っても、3年か5年後に統合して、また校歌が変わる、学校名も変わるというよりも、校歌とは違う意味合いになるかもしれないが、八幡浜の子どもの歌を作った方が良いのではないかと思う。また、先ほどの意見にもあったが、旧市内の小学校5校（日土小除く）の統合についても、早めに進めた方が良いのではないか。

（答）学校名や校歌については、様々な意見があると思うので、今日の意見を次の地区協議会の中で議論を深めたいと思う。後期計画を立てる際に、八幡浜市全体を3つのエリアに分けた場合、（仮称）八幡浜南小学校は今後も存続していく方向で考えている。八幡浜市の中心から下にある小学校を（仮称）八幡浜南小学校とすると、それ以外は真穴小が残っていることになるので、第三次実施計画では、この真穴小をどうするのか一つの議論になってくると思う。旧市内では、その他に千丈小、江戸岡小、松蔭小、白浜小の4校あるが、これを1校にするのか、それとも地域的に2校にするのかを協議する必要がある。旧保内町の川之石小、宮内小、喜須来小と近隣の日土小をどのように位置づけるかという議論にもなってくると思う。また、八幡浜の子どもの歌については、この地域説明会が終われば、対象校区ごとに地区協議会を設置するので、それらの意見を地区協議会で検討し、最終的には統合準備委員会で決定していくことになる。

(意見) 私の子どもが小学生ぐらいの時の話であるが、川之内小学校では、美術の県展などでクラスの半分ほどの児童が賞を取ったという話を聞いたことがある。規模の小さい学校だから子どもたちの能力を高めるのではなく、地域の中で大事に子どもたちを育てようとする先生の指導のおかげで、子どもたちがよく育つのではないかと思う。そのことを考えると、学校規模のことばかり考えて、統合してもいいのかどうかを含めて検討する必要があると思う。特に心配していることは、統合により通学路が長くなることによって、帰宅時間も遅くなるし、共稼ぎの家庭であれば、帰宅時間になっても、家にまだ親が帰っていないこともあるので、子どもたちの居場所がなくなるのではないかと危惧する。

(問) 統合は、やむを得ないと思っているが、統合した後のことが大事である。学校が閉校すると、学校の児童クラブはなくなると思うので、公民館の児童クラブの時間をある程度延長しながらも、子どもたちの居場所づくりのために、どのような体制づくりを考えているのか。

(答) 川之内小学校で、美術作品や図工作品で入選者が多く出たというのは、地域柄もあるかもしれないが、その当時の図工・美術の先生の指導によるところが大きいのではないかと思う。

児童クラブの実情を言うと、現在、特に困っているのが宮内小の児童クラブで、施設の広さから考えても1、2年生の希望者しか入れない状況であったが、今年の夏休みから保内幼稚園の空き教室を借りて、1、2年生は保内幼稚園で放課後から子どもを預かり、3、4年生も希望者があれば宮内小の現在の児童クラブに入れるようにしている。希望する家庭には、全員が児童クラブで預かれる体制を作ろうとしている。他の地域については、実施主体が市であるか、地域であるかの違いはあるが、保護者の希望に沿ったものができていると思っている。地域主体で児童クラブを運営しているのは、双岩地区と川上地区、日土地区になるが、川上地区と双岩地区の保護者説明会では、統合後、神山児童クラブを利用するのではなく、現在あるそれぞれの地区の児童クラブを維持してほしいという強い要望があった。教育委員会としては、川上地区や双岩地区の子どもたちは、学校の諸活動が終わったら、スクールバスに乗ってそれぞれの地区に帰り、地元の児童クラブを利用し、保護者はそこに迎えに行く方が良いのではないかと思っているので、子育て支援課と協議しながら、統合後も継続できるよう補助していくことを考えている。

(意見) 中学校の統合は現在進んでいるが、小学校もこれから計画通りに進めていくものと思う。尚且つ、神山幼稚園の移転、それと旧松蔭保育所跡地の児童センター建設、それ以外にも、マクドナルドの誘致やスケートボードパークや3×3バスケットコートが新設されるということで、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わってくる。教育委員会だけでは対応が難しいと思うので、子育て支援課や政策推進課も含めて、八幡浜市の子どもたちをこれからどのように育て、地域に愛着を持つような子どもたちに育てていくのか、そういう八幡浜市のビジョンを作っていくことが必要だと思う。

(意見) 先ほど川之内小学校の話をしたが、児童数が少ない学校なので、児童がそれぞれ責任を持ち、役割分担し、発表会でもハキハキと発言していたと聞いている。ところが、中学校に進学すると、今度は逆に周りから浮いてしまい、他の地区の子どもたちから嫌われる対象になり、困っているということ聞いたことがある。子どもの数が多くなったことにより、折角の子ども能力が無駄にされることのないように、先生には上手に指導してほしいと思う。

(答) 小学校で子どもたちが自立し、積極的に発言したり、諸活動を高めていくような土壌があるの

に、それが大きな中学校に進学したことにより、できなくなるということは問題だと思うので、そういう子どもたちの良さを互いに認め合ったり、吸収したりして、もっと高め合っていくことが大事だと思っている。例えば 八代中学校に真穴中と双岩中が統合したが、真穴中の子どもたちが八代中に来た時には、真穴地区の子どもたちの純粋さ、素朴さが八代中の子どもたちを感化させたと聞いている。双岩中の子どもたちも互いの良さを吸収し合っていたと聞いている。3つの中学校が統合し、新しい中学校になっても、お互いを認め合いながら、統合して良かったと思えるようにしたいと思う。小学校から中学校に進学した時もそういうことが起きないように対応していきたい。

(意見) 教員たちは、統合した後の子どもたちに手厚い教育を施すことにより、それぞれの地域の子どもたちが地域に誇りを持ち、すこやかに育ってほしいと願っていると思う。そのためには、教員が子どもたちに集中できるように、学校運営のための予算をつけてほしい。例えば、学校の周りに生垣があるが、教員が剪定をしている。市営の公園であれば定期的に業者に委託し剪定をしていると思うが、学校でも業者に委託してほしい。教員が常に子どもたちに向き合えるような体制づくりのため、今回の統合をきっかけに予算措置をしてほしい。

(問) 3つの小学校が統合した場合、現4年生が35名、3年生が40名、2年生が35名、1年生が36名で、これは異動がないと仮定した数字ではあるが、学級編成及び教職員定数の標準に関する法律に書かれているとおり、1学年35名であれば1学級とするのか。例えば、35名を1人の教員が対応すると、1名増えて36名であれば18名の2学級になり、教員も2人になるのでは、教育の質も変わってくると思う。35名が基準であると書かれているが、自治体の判断である程度緩和し、例えば35名でも2学級にできるようにする考えはないのか。

(答) 統合が予定通りに進めば、6年生の通常学級が35名で、特別支援学級が3名、5年生が40名で、特別支援学級が4名、4年生が35名で、特別支援学級が1名、3年生が36名で、特別支援学級が3名、1年生と2年生はまだ小学校に入学していないので、特別支援学級に何人入級するかは分からないが、全体として2年生が36名、1年生が36名となっている。現在、愛媛県では6年生まで35人学級としているので、36名になれば2学級になるが、35名であれば1学級ということで微妙なところにある。言われるとおり、20人弱と35人満度で学級づくりをするのでは違ってくると思うが、どうしても35名という線引きがあるので、そういう場合には、学級数によって割り当てられる教員数以外に、例えば、学年を指定し、5年生は少人数で算数を指導するか、加配制度を利用して、統合後の3年間は余分に教員を配置してほしいと要望するなどの対応策をとるしかないと思っている。